

## 2019年3月期 通期決算に関する主なご質問

Q: 前期（2019年3月期）に運転資本が増加した背景は？

A: 在庫増によるもので、その要因は2つあります。1つは、欧米において年度後半に自動車用ガラスの急激な需要下落があり、生産調整が十分間に合わなかったことです。もう1つは2019年3月末に、いわゆるハード Brexit が懸念されていたため、それに備えて3月末にかけて欧州の自動車関連事業で意識的に在庫を積み増したことによるものです。

Q: 今期（2020年3月期）に設備投資が大幅に増えるが、フリー・キャッシュ・フローの改善は可能なのか？

A: 設備投資計画については、決算プレゼンテーションのP44に記載していますが、今期は総額で900億円の見通しです。このうち太陽光発電パネル用ガラスの増産や南米のフロート窯増設といった戦略投資等で約600億円を予定しています。これら戦略投資を除いたベースでは、通常レベルの3桁億のフリー・キャッシュ・フローの創出は可能と見ております。加えて、資産売却等も検討してキャッシュ・フローを改善したいと考えています。

Q: なぜ戦略投資を行う時期に、種類株式の追加償還を行うのか？

A: 種類株式は、バランスシートの安定化を目的としたものですので、資本を減らさないように、処分可能利益のレベル、配当、為替変動による影響などを考慮して実施することを方針としています。種類株式については、償還により優先配当やプレミアムの削減が可能となることから、なるべく早く償還することが将来的なEPS改善に寄与すると考えています。

Q: 太陽光発電パネル用ガラスの売上は前期どの程度増えたのか？今期はどの程度増える見込みか？

A: 前期はその直前の期対比で販売数量が30%程度増えました。今期も同程度の増加を想定しています。

Q: 決算プレゼンテーションのP15にある今期業績予想コメントについて補足説明を。

A: 建築用ガラス事業は投入コストの増加や一部地域での競争激化の影響もあり若干の減益の想定、自動車用ガラス事業も欧米での需要減少の影響を受けます。一方で、高機能ガラス事業は引き続き増益となる見通しです。

Q: 同じく決算プレゼンテーションのP15にある、建築用ガラス事業の「北米市場の競争激化」や自動車用ガラス事業の「日本でのコスト増加」とは何か？

A: 「北米市場の競争激化」とは、昨年まで当社含め市場で複数のフロート窯が自然災害などの影響で停止していたものが、復旧して供給量が増えたということです。新規に窯が増えるというものではありません。また、日本やアジアでのコスト増は、原燃材料費の高騰が主な要因です。

Q: 燃料費についてはヘッジしていたはずだが、原油価格の前提は？

A: 原油価格（ブレント）の前提は、決算プレゼンテーションの P45 に掲載の通り、67 ドル/バレルを前提としています。燃料ヘッジは、引き続き今期使用予定量の 5 割程度を実施しています。しかし、今期のコスト増はエネルギー価格よりもむしろ原材料コストの高騰の影響が大きい見込みです。また、直近では欧州の電気代が CO2 排出権や再生エネルギーへの助成金の増加等で上昇していることも影響があります。

Q: 今期見通しの増減益分析（決算プレゼンテーション P14）でのコストダウンが少ないが、まだコスト削減の余地はあるのか？また、建築用ガラスでは販売価格を改善する余地はあるか？

A: 製造コストの削減活動は常に行っており、今期も計画に織り込んでいますが、一方で人件費等のコスト上昇で相殺されています。現在、生産コストをさらに踏み込んで減らしていくプロジェクトをスタートしていますが、この効果が出るのは来期以降になるものと見えています。建築用ガラスの販売価格は過去 2-3 年欧米で大きく改善しましたが、競争激化により値上げは以前より難しくなっています。しかし、値上げが可能な地域では引き続き改善に取り組みます。

Q: 次の中計期間となる来期以降のイメージは？

A: 現在、次の中期計画を検討中です。MTP（中期経営計画）で目指した ROS（無形資産償却前営業利益率）8%は当然目指すべきレベルだと考えています。戦略投資の効果の発現と合わせて、VA 化のさらなる推進とコスト削減が重要であり、VA 化に伴って要求レベルが上がっていく中で製造のレベルアップに取り組んでいます。また物流費の削減やロボット化にもさらに取り組み、来期からは再び増益トレンドに戻していきたいと考えています。

以上

当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。